

開発環境のインストール (Mac 版)

イラストでよくわかる Android アプリの作り方 (Web 公開特別編)

この資料では、Android プログラムを作るための開発環境を Mac にインストールする手順を紹介しています。インプレスジャパン刊『[イラストでよくわかる Android プログラムの作り方](#)』(以下「本書」と略します)の説明にそってプログラムを作成し、実行するための環境が準備できます。以下の2点に留意してお使いください。

・本書の付録 A「開発環境のインストール」では Windows での手順を紹介していますが、ここでは、Mac での手順を紹介します。動作確認環境は以下の通りです

Mac Mini , Early 2009/ CPU:2GHz Intel Core 2 Duo/メモリー:4GB

MacBook Air 11-inch, Late 2010/CPU:1.4GHz Intel Core 2 Duo/メモリー:4GB

OS はいずれも Mac OS X Lion 10.7.2

・この資料は本書の範囲外のものなので、ご質問・サポートなどご容赦ください。著者ならびに株式会社インプレスジャパンは、記述が正確なものとなるように最大限努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。また、内容に起因する直接的および間接的な損害に対して一切の責任を負いません。



プログラミング未経験者でも大丈夫！ アプリの作り方やしゅくみがいまじできる

Android プログラミングのはじめの一步。スロットマシンゲームの作成を通して、画面のデザイン (XML) やプログラミング (Java) を習得しよう！ ウェブや書籍などで提供されている情報は専門知識を持った人のためのものが多く、初心者向けと銘打っていても Java や XML の前提知識なしで理解するにはかなりの苦勞が伴います。そこで、この本ではパソコンの基本操作ができる程度の知識で読み進められることを目指しました。Android のプログラムを作りながら、自然に Java というプログラム言語の知識が身につくようになっています。

¥2,100 (本体 ¥2,000+税)

発売日：2011/11/25 発売

ページ数：256P

サイズ・判型：B5 変型判

著者：羽山 博 著／めじろまち イラスト

ISBN コード：978-4-8443-3115-5

 インプレスジャパン
タイレト **版元直販サイトで買う** 

amazon.co.jp で購入する 

セブンネットショッピングで購入する 

楽天ブックスで購入する 



[イラストでよくわかる Android アプリの作り方](#) (Web 公開特別編) by Copyright ©2011 Rogue International.

All rights reserved. is licensed under a [Creative Commons 表示 - 非営利 - 改変禁止 2.1 日本 License](#).

 Impress Japan

■概要

Mac で Android の開発環境を準備するための手順は大きく以下の 4 ステップに分かれます。ステップ 2 の日本語化は必須ではありませんが、あわせて掲載しておきます。Eclipse のメニューやダイアログボックスの表記が英語のままでいいという方はステップ 2 を省略していただいても構いません。また、ステップ 3 以降の手順は Windows 版と同じですが、これらについてもあわせて掲載しておきます。用語の意味などについては、本書の付録 A を参照してください。

ステップ 1 Eclipse 開発環境のインストール



ステップ 2 Eclipse 開発環境の日本語化（必須ではありません）



ステップ 3 Eclipse への Android 開発ツール（ADT Plugin）組み込みと Android SDK のインストール



ステップ 4 Android 仮想デバイス（AVD）の作成

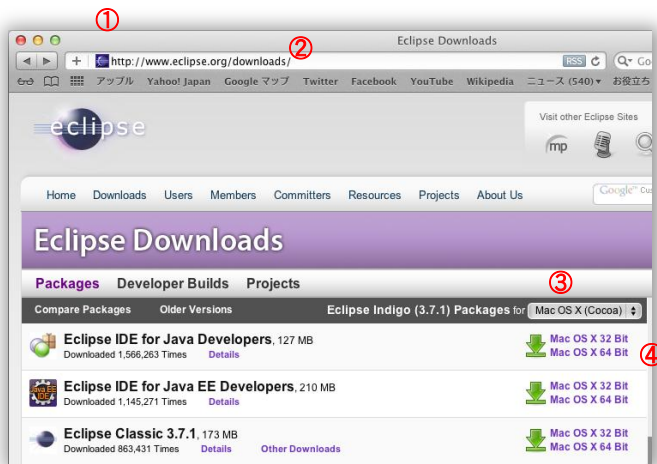
（補足）Mac OS にはあらかじめ Java 開発キット(JDK)が含まれているので、JDK のインストールは特に必要ありません。ステップ 3 で ADT Plugin を組み込むと、引き続き Android SDK も自動的にインストールできます。なお、本書のサンプルプログラムを利用するには文字コードを UTF-8 に変更しておく必要があります。ステップ 4 の後に、その方法を示してあります。

では、ステップ 1 から見ていきましょう。

■ステップ1 Eclipse 開発環境のインストール

eclipse.org のサイトからダウンロードした書庫ファイルを好きなフォルダーに展開するだけで、Eclipse 開発環境のインストールができます。

[1]



①Safari などのブラウザを起動する

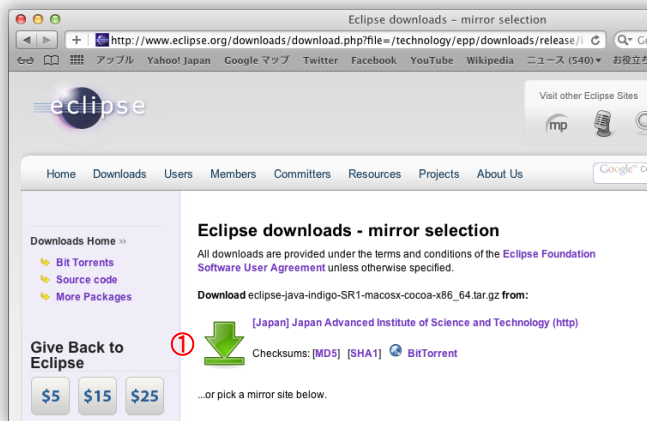
②<http://www.eclipse.org/downloads/> と入力し [return] キーを押す

▶Eclipse をダウンロードできるサイトが表示される

③ [Mac OS X(Cocoa)] を選択

④ 「Eclipse IDE for Java Developer」の右の [Mac OS X 64 Bit] をクリック

[2]

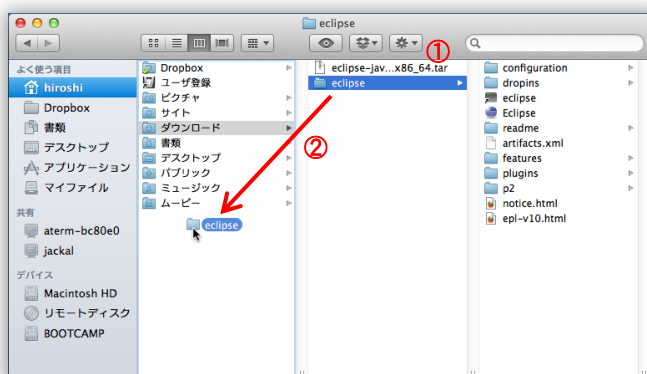


①ダウンロードのボタンをクリック

▶自動的にダウンロードが開始される

▶しばらくすると、ダウンロードが終了する

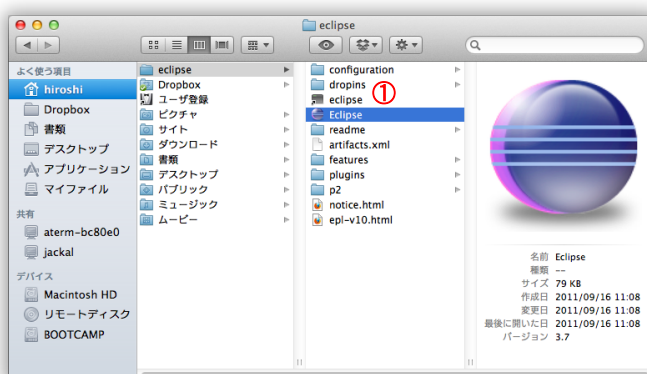
[3]



- ▶ダウンロードされたファイルの圧縮が自動的に解除され、eclipse-java-indigo-SR1-macosx-cocoa-x86_64.tar という名前の書庫ファイルが取り出される
- ① eclipse-jav...-x86_64.jar ファイルをダブルクリック
- ▶書庫が展開され、eclipse フォルダが作られる
- ② eclipse フォルダを使いやすい場所にドラッグして移動しておく

以上で、Eclipse のインストールが終わりです。試しに起動してみましょう。

[4]



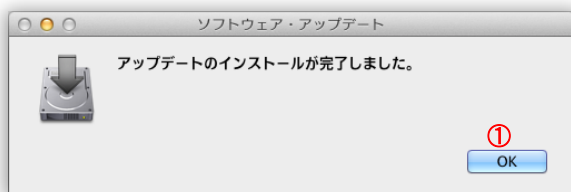
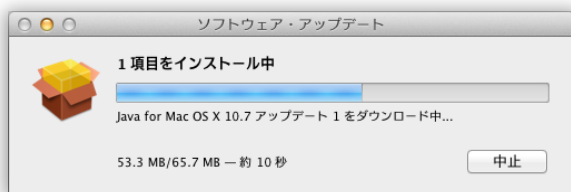
① Eclipse をダブルクリック

[5]



- ▶Java ランタイムが必要であるというメッセージが表示される
- ① [インストール] をクリック
- ！すでに Java ランタイム(JRE) がインストールされている場合はこのメッセージは表示されません ([6] に進みます)

[5]



[6]



[7]



▶インストールが自動的に開始される

▶インストールが完了したというメッセージが表示される

① [OK] をクリック

▶ダウンロードしたアプリケーションを開いてもいいかという警告メッセージが表示される

① [開く] をクリック

！ [開く] をクリックすると、このメッセージは次からは表示されません。

▶スプラッシュスクリーンが表示される

▶しばらくすると、ワークスペースを指定するダイアログボックスが表示される

① [OK] をクリック

！ここでは、あらかじめ指定されたワークスペースを使うことにします。

[8]



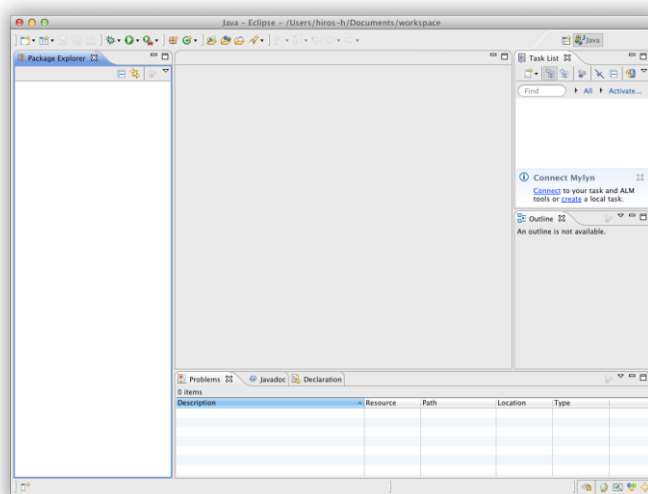
▶初期画面が表示される

①ワークベンチを開くためのボタンをクリック

！次からはこの画面は表示されません。



[9]



▶ワークベンチが表示された。

ここから Java のプログラムが作成できる

この状態では、Eclipse のメニューやダイアログボックスがすべて英語で表記されています。日本語化したい方はステップ 2 に進み、英語のままかまわない方はステップ 3 に進んでください。ただし、この資料では日本語化したものとして、ステップ 3 の手順を記しています。

■ステップ2 Eclipse 開発環境の日本語化

MergeDoc Project のサイトから Pleiades 本体をダウンロードし、eclipse をインストールしたフォルダーにいくつかのファイルを追加します。続いて、設定ファイルに記述を追加すれば、Eclipse 開発環境を日本語化できます。

[1]



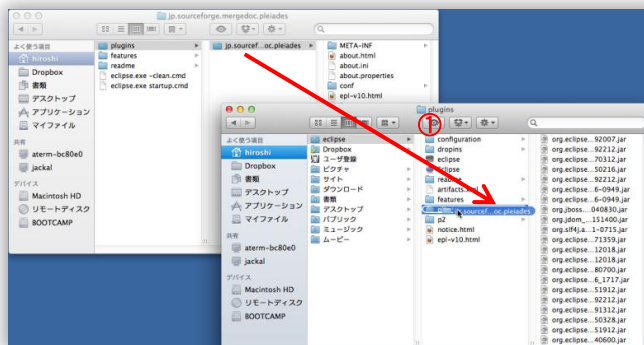
①Safari などのブラウザを起動する

②<http://www.eclipse.org/downloads/>と入力し、[return] キーを押す

「Pleiades - Eclipse プラグイン日本語化プラグイン」というページが表示される

③「Pleiades 本体ダウンロード」の下の安定版 [1.3.3] をクリック

[2]



！注意！絶対ダメ！

pleiades_1 フォルダの下にある plugins フォルダと features フォルダをまるごと eclipse フォルダの下に移動してはいけません。Mac では移動元と移動先のフォルダ名が同じだと、移動先のフォルダの内容がすべて消え、移動元の内容だけになってしまいます。

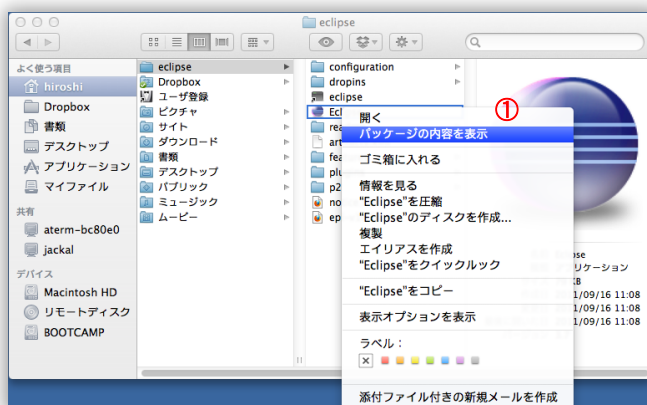
▶自動的にダウンロードが開始される

▶ダウンロードが終了すると圧縮が自動的に解除され、pleiades_1 というフォルダが取り出される

①pleiades_1 の下の plugins フォルダの下にある jp.sourceforge.mergedoc.pleiades というフォルダを eclipse の plugins フォルダの下に移動する

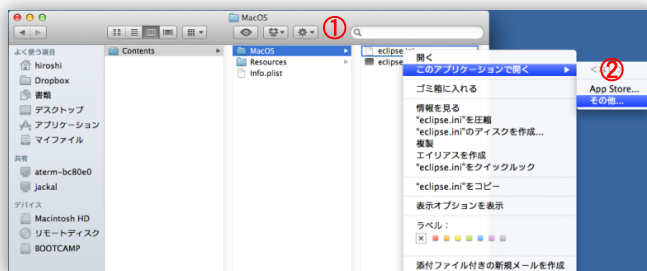
②同様にして、features の下にある jp.sourceforge.mergedoc.pleiades というフォルダを eclipse の features フォルダに移動する

[3]



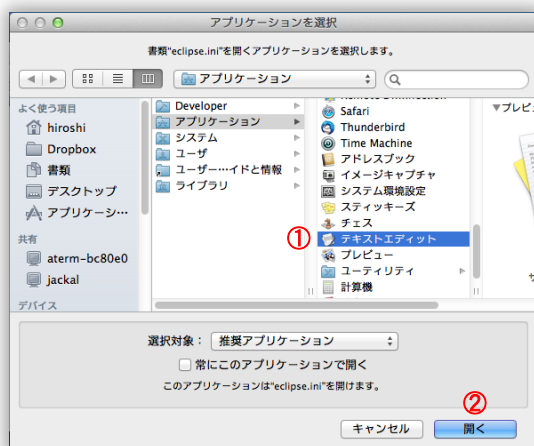
①Eclipse を右クリックし、[パッケージの内容を表示] をクリック

[4]



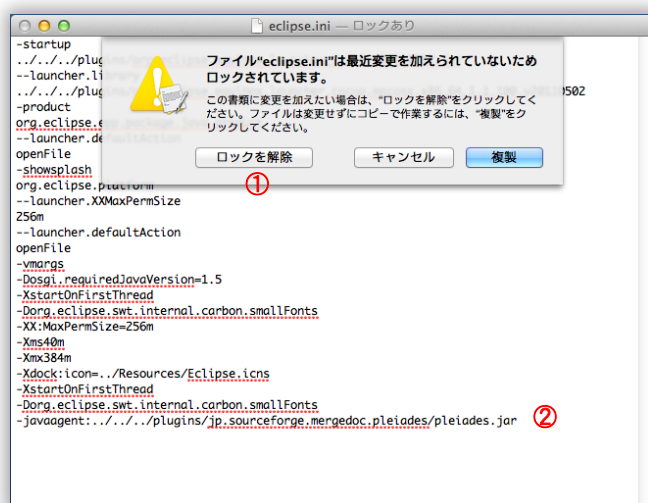
① [Contents] → [MacOS] の順にフォルダーを開く
② [eclipse.init] ファイルを右クリックし、[このアプリケーションで開く] - [その他...] を選択

[5]



① [テキストエディット] をクリック
② [開く] をクリック

[6]



① [eclipse.ini - ロックあり]
というメッセージが表示されたら [ロックを解除] をクリックして、編集できるようにする

②最後の行に
-javaagent:../..../plugins/jp.sourceforge.mergedoc.pleiades/pleiades.jar
という行を追加してファイルを保存する

！ファイルを上書き保存するにはメニューから [ファイル] - [バージョンの保存] を選択します。

[7]

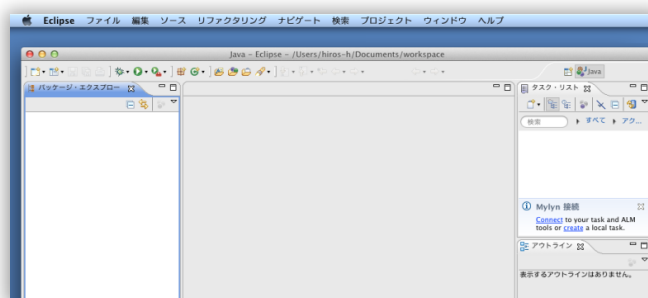


▶スプラッシュスクリーンが表示される

▶しばらくすると、ワークスペースを指定するダイアログボックスが表示される

① [OK] をクリック

[8]



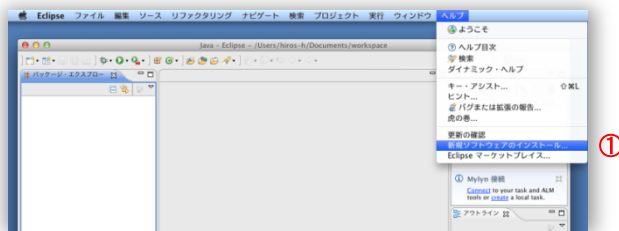
▶ワークベンチが表示された。ここから Java のプログラムが作成できる

▶メニューやタブ、ダイアログボックスなどの表示が日本語化されている

■ステップ3 Eclipse への Android 開発ツール (ADT Plugin) 組み込みと Android SDK のインストール

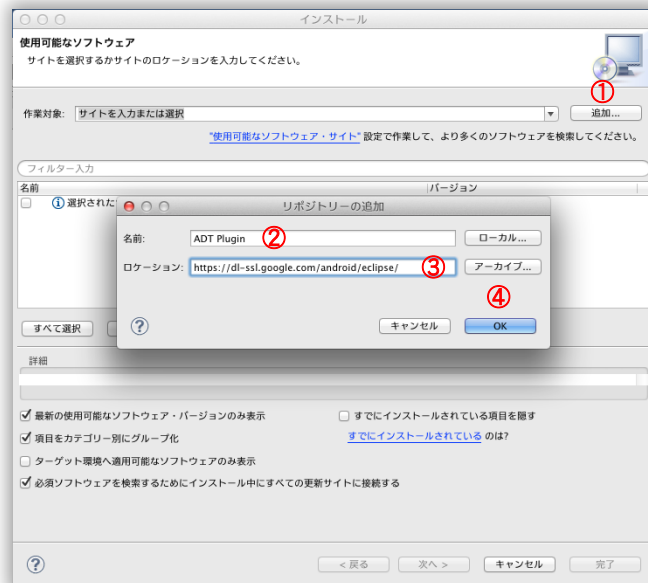
これ以降の手順は、Eclipse や Android SDK などの操作なので、OS に関係なく共通です。まず、Android 開発ツール (ADT Plugin) を Eclipse に組み込みます。そのあと Android SDK をインストールする画面が自動的に表示されるので、続けて Android SDK の必要なバージョンをインストールします。

[1]



①メニューから [ヘルプ] - [新規ソフトウェアのインストール...] を選択

[2]



▶ [インストール] ダイアログボックスが表示される

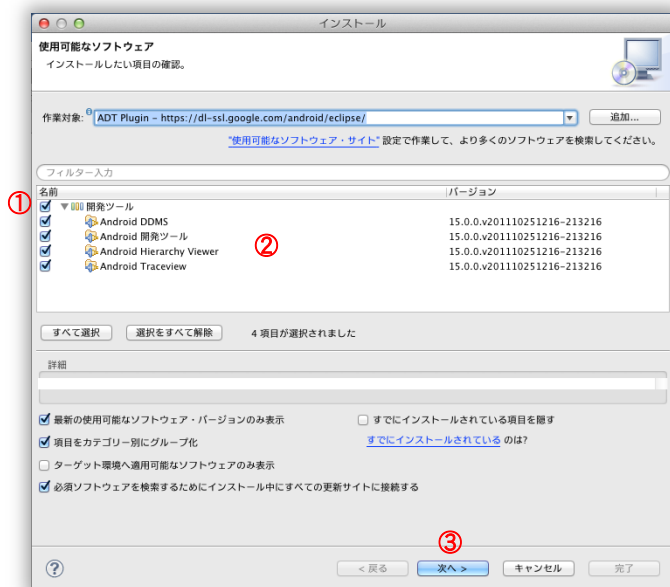
① [追加...] をクリック
[リポジトリの追加] ダイアログボックスが表示される

② [名前] に分かりやすい名前を入力 (ここでは ADT plugin と入力する)

③ [ロケーション] に <https://dl-ssl.google.com/android/eclipse/> と入力する

④ [OK] をクリック

[3]



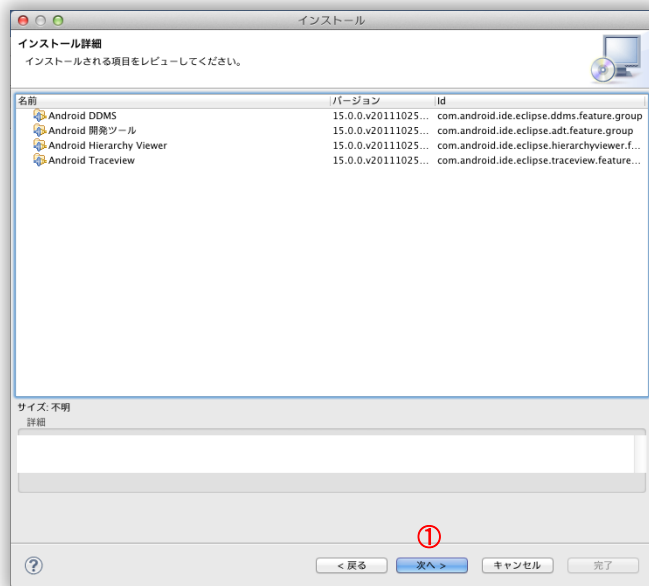
▶利用できるツールが表示される

① [開発ツール] にチェックマークを付ける

② [開発ツール] の左の [▽] をクリックして、すべての項目にチェックマークが付いていることを確認する

③ [次へ >] をクリック

[4]

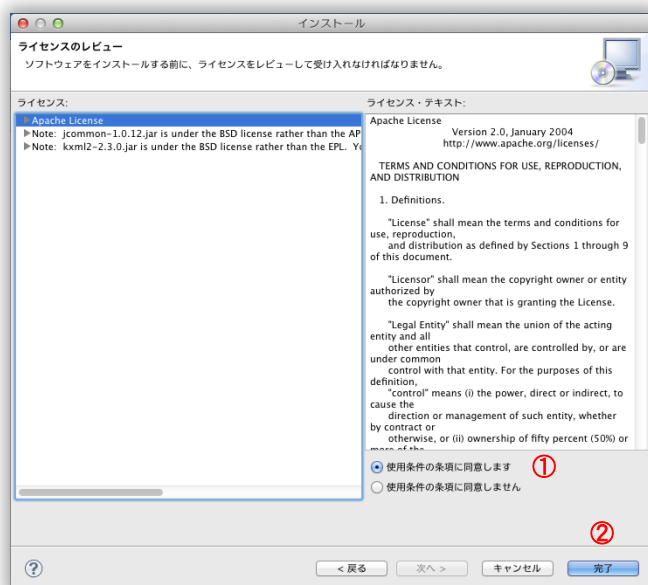


▶インストールされるツールが一覧表示される

① [次へ >] をクリック

▶インストールが実行される

[5]



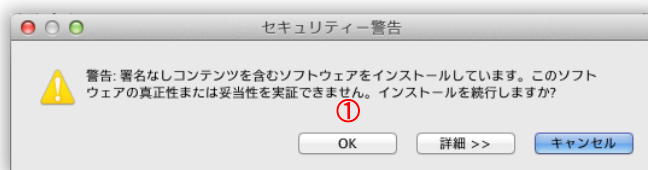
▶ライセンス条項の画面が表示される

① [使用条件の条項に同意します] をクリック

② [完了] をクリック

ダウンロードとインストールが開始される（しばらく時間がかかります）

[6]



▶途中でセキュリティーの警告が表示される

① [OK] をクリック

インストールが続けられる

[7]



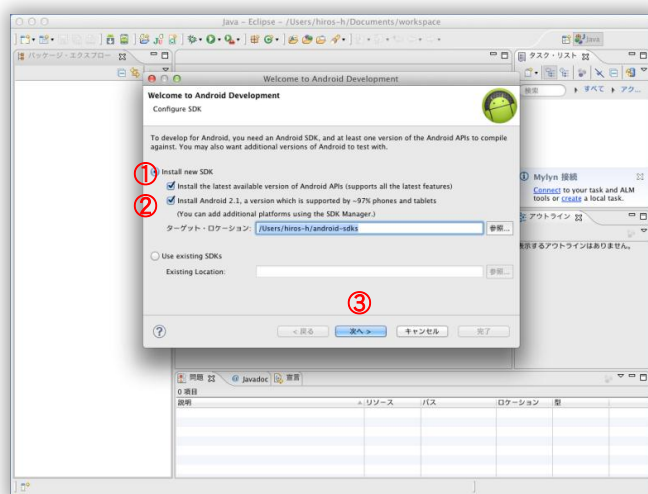
▶インストールが終了した

▶Eclipse を再始動するかどうかというメッセージが表示される

① [今すぐ再始動] をクリック

▶Eclipse がいったん終了し、再始動される

[8]



▶ Android SDK を設定する画面が自動的に表示される

① [Install new SDK] をオンにする

② [Install Android 2.1 ...] というチェックボックスをオンにする

③ [次へ >] をクリック



[9]



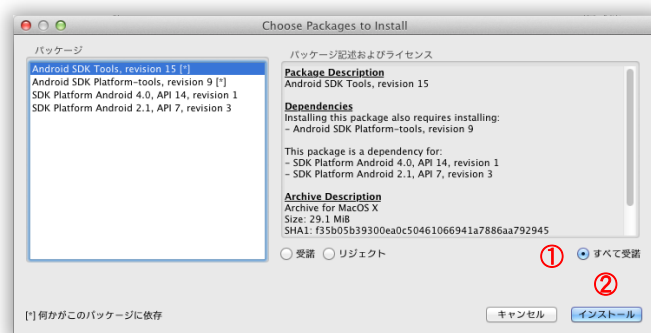
▶ 使用統計を送信するかどうかを選択するためのダイアログボックスが表示される

① [完了] をクリック

！使用統計を送信しても個人情報
は送信されないの
で、プライバシーの心配はありません。



[10]



▶インストールされるパッケージの一覧とライセンス条件が表示される

- ① [すべて受諾] をクリック
- ② [インストール] をクリック



[11]



▶ Android SDK が自動的にインストールされる

▶途中で [ADB Restart] というメッセージが表示される

- ① [はい] をクリック

▶しばらくするとインストールが終了する

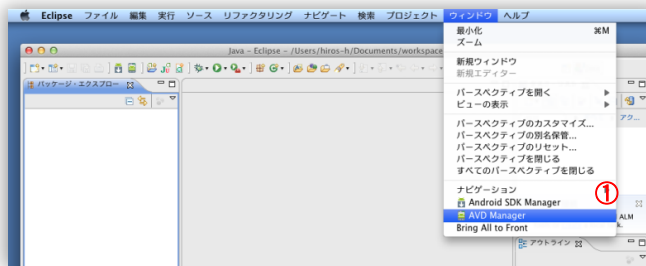
以上で Eclipse に Android 開発ツールが組み込まれるとともに、Android SDK が利用できるようになりました。つまり、これで Android アプリケーションが作成できるようになったというわけです。

■ステップ4 Android 仮想デバイス (AVD) の作成

これが最後のステップです。Android アプリケーションを Mac 上で実行できるようにするために、Android 仮想デバイス (AVD : Android Virtual Device の略) を作成します。AVD を利用すれば、Mac 上に Android 端末の画面が表示できるようになります。

AVD は [Android SDK および AVD マネージャー] を使って作成します。どのバージョンの Android に対応した仮想デバイスであるか、画面の解像度はいくらかなどの設定ができますが、ここでは、Android 2.1 対応、HVGA (320×480) の仮想デバイスを作ることとします。

[1]



①メニューから [ウィンドウ]
— [AVD Manager] を選択

[2]



▶ [Android Virtual Device Ma
anager] ダイアログボックスが表示される

① [新規...] をクリック

[3]



▶ [Create new Android Virtual Device] ダイアログボックスが表示される

① [名前:] に好きな名前を入力する（ここでは「Android2.1」と入力した）

② [ターゲット:] のリストから [Android 2.1 - API Level 7] を選択する

③ [Skin:] の [ビルトイン:] から [HVGA] を選択する

④ [Create AVD] をクリック



[4]



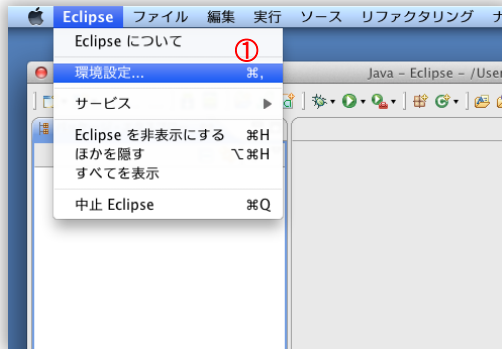
▶ 作成した仮想デバイスが一覧に表示される

① [閉じる] ボタンをクリックしてダイアログボックスを閉じておく

以上ですべての準備が終了しました。Android アプリケーションの作成と、パソコン上での実行ができるようになりました。ただし、本書のサンプルプログラムをインポートして使うときには、文字コードを UTF-8 に変更しておく必要があります。次にその方法を示します。

■補足 文字コードの設定を変更する

[1]



①メニューから [Eclipse] - [環境設定] を選択

[2]



①設定一覧から [一般] - [ワークスペース] を選択

ワークスペースに関する設定画面が表示される

② [テキスト・ファイルのエンコード] の [その他] をクリック

③文字コードのリストから [UTF-8] を選択

④ [OK] を選択

これで、サンプルアプリケーションをダウンロードし、インポートすれば実行できるようになります。